

知事記者会見の概要

日 時：令和7年12月24日（水）10:00～10:39

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 戦争の記憶継承に向けた検討委員会の立上げについて
- (2) 陸羽西線運転再開記念イベントの開催について

代表質問

- (1) 令和7年を振り返っての知事の所感について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) クマ出没注意報について
- (3) 発表事項1に関連して
- (4) JR羽越本線脱線事故から20年が経過するにあたっての所感について
- (5) 令和6年農業産出額について

<幹事社：朝日・莊内・NHK>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

今年も残すところ、あとわずかとなりました。そんな中、明るいニュースが飛び込んでまいりました。

昨日、農林水産省から令和6年の本県の農業産出額が公表されまして、3,025億円となりました。前年と比べて584億円、率にして23.9%の増加となったところです。3,000億円を超えるというのは平成6年以来30年ぶりとなっております。

これもひとえに生産者の皆様の御苦労のたまものというふうに思っております。大きな要因は、米価の上昇となっておりますけれども、でも、本当に生産者の皆様が大変御苦労された成果だというふうに思っています。

これからも関係者の皆さんと一丸となって、気温変動に強い産地づくりや県産農産物のブランド力向上に努めて、産出額のさらなる増加を目指してまいりたいと考えております。

それから、クマでありますけれども、出没はだいぶ減少しました。ですが、まだまだ油断できない状況だと捉えております。

現在、「クマ出没警報」の発令を12月31日まで延長して警戒を呼びかけているところであります。1月1日からは「注意報」に切り替えて、引き続き注意を呼びかけることといたしました。期間は1月15日までであります。だいぶ少なくはなったんですけども、県民の皆様には屋外に生ごみなど餌となるようなものを放置しない、そして、柿の木など不要な果樹の伐採を進めることなど、引き続き、お一人おひとりが身を守る行動、そして、クマの出没防止のための対策をとっていただきますようお願いいたします。

☆発表事項

知事

ここで私から、発表が2点ございます。

1点目は、戦争の記憶継承に向けた検討委員会の立ち上げについて申し上げます。

戦後80年の節目となる今年は、戦争の記憶と平和の尊さを次世代に継承していくため、小学生を対象としたワークショップや、沖縄「山形の塔」慰霊祭への高校生の参列など、新たな取組みを展開してまいりました。

戦争の記憶を次世代へ伝える意義を改めて認識しましたし、多くの県民の皆様から、「資料を集めるのは今が最後の機会だ」とか、「誰もが簡単に資料に触れることができる場所がほしい」といったお声をいただき、戦争の記憶と平和の尊さを継承していく取組みの重要性を強く感じたところであります。

山形県でも、県内各地に戦争の歴史があります。その記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていくため、「本県の戦争資料の展示のあり方」や「若い世代と連携した持続可能

な継承の取り組み」などを検討する委員会を立ち上げることといたしました。

今後、委員の人選を進め、第1回の検討委員会を2月頃に開催したいと考えております。当時の記憶を確実に次の世代へと伝え、戦争の惨禍を二度と繰り返すことがないよう、委員会での検討結果も踏まえ、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

2点目は、陸羽西線運転再開記念イベントの開催についてです。

昨日報道発表したところですが、国道47号の（仮称）高屋トンネルの工事に伴い、令和4年5月からバスによる代行輸送となっていたJR陸羽西線の運転再開にあわせまして、沿線の最上・庄内地域で、記念イベントを開催いたします。

再開初日となる1月16日金曜日には、新庄駅や余目駅で、地域住民等によるお見送り・お出迎えを行いますとともに、1月18日日曜日には、新庄駅で、新庄・酒田吹奏楽団の合同演奏会や、庄内浜文化伝道師による寒鯨解体ショーなど多彩な企画を実施いたします。

また、1月25日日曜日には、酒田での寒鯨まつりに合わせて、JRをご利用の方に対し、酒田駅で、記念品のプレゼントを予定しております。

陸羽西線の再開をJR東日本や沿線の市町村と共に盛り上げていきたいと考えておりますので、ぜひ多くの皆様に御参加いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

私からは以上です。

☆記者クラブ代表質問

記者

幹事社の朝日新聞、斎藤です。よろしくお願ひします。

今年最後の定例記者会見ということでお尋ねします。まず、この1年を振り返り、どのような年だったか、知事の所感をお願いいたします。次にですね、年末の恒例の質問となっていますけども、今年1年を表す「今年の漢字」について教えてください。

知事

はい。それではお答えいたします。

令和7年を振り返りますと、まずは本県でさくらんぼや西洋なしなどの果樹栽培が始まってから150周年という節目の年、「やまがたフルーツ150周年」でありました。そのため県では全国の消費者に向けた県産フルーツの魅力発信のほか、フルーツをきっかけとした観光誘客の促進や関係人口・交流人口の拡大、多様な産業との連携などに取り組んでまいりました。

令和9年にデビュー予定の水稻新品種につきましては、2月に名称を募集して、「ゆきまんてん」と決定いたしました。ひらがなで「ゆきまんてん」です。この品種の白く、大粒で、美味しいという特徴をよく表しておりますし、何より皆さんのが笑顔になれるような、素敵な名前を考えていただいたというふうに思います。今後は県内各地で試験栽培を拡大すると

ともに、生産・流通販売などの関係者から御意見をお聞きしながら、振興方針を決定してまいります。

一方で、1月以降の大雪による果樹の枝折れや、さくらんぼ開花期の天候不順による結果不良、夏の高温・少雨による果実や野菜の収量減少など、気候変動による農林水産業への影響は広範囲に及んだところです。今後は高温耐性品種の開発や栽培方法の研究を加速させること、関係機関・団体と連携しながら気候変動に強い産地づくりを進めてまいります。

4月早々、米国が発表した関税措置により、日本国内に激震が走りました。当初の発表から税率は引き下げられて合意したものの、県内企業からは、先行きの不透明感や経営への影響を懸念する声が多く上がりました。そのため、県では特別金融相談窓口の設置や、資金繰り、取引拡大などの支援に取り組んだところです。

6月17日から7月末にかけては、山形新幹線E8系の車両故障に伴う大規模な運休が発生し、特に観光産業では宿泊のキャンセルなど甚大な影響が出たところです。そのため、県では県内の宿泊施設を対象とした宿泊割引キャンペーンを展開するなど、県内観光需要の回復に取り組んでまいりました。

また、山形新幹線米沢トンネル（仮称）につきましては、早期事業化の実現に向けて、「山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議」を設置し、整備計画や整備スキーム案について今年度内に一定の取りまとめを行う予定です。さらに、旺盛なインバウンド需要を最大限に取り込むとともに、空港の更なる利用拡大を図るため、滑走路延長を含めた機能強化に向けた検討を進めるなど、高速交通ネットワークの形成をさらに前進させてまいります。

加えまして、熱中症による救急搬送者数が調査開始以降、過去2番目に多い状況となりました。また、ツキノワグマの目撃件数、人身被害とともに過去最多となるなど、気候変動や鳥獣被害による県民生活への深刻な影響が現れた年でもありました。特にクマ対策につきましては、河川の藪の刈払いや県と県警が連携した「緊急銃猟タスクフォース」の派遣をはじめ、市町村等への支援、政府への緊急要望、「山形県版クマ被害対策パッケージ」の策定及び実施など、重層的に取組みを展開してきたところです。今後も県民の皆様の安心・安全の確保のため、被害の発生防止に全力で取り組んでまいります。

明るい話題も多くありました。10月には、米国の有力メディア「ナショナルジオグラフィック」の「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に国内、日本で唯一山形県が選出されました。本県の魅力が世界に認められたものであり、さらなるインバウンドの拡大が期待されるところであります。県としましては、この度の選出を大きなチャンスと捉え、本県の魅力を世界に向けてPRするとともに、訪れた方々に満足していただけるよう、県内観光地の受入態勢の整備を進めてまいります。

11月に開催された東京2025デフリンピックには、本県から5名の選手が出場し、世界最高峰の舞台で、持てる力を思う存分發揮してくれました。なかでも、バスケットボールでの小鷹実春選手の金メダル、サッカーでの齋藤心温選手の銀メダル、さらには水泳での

齋藤京香選手の銅メダル獲得は、まさに快挙でありました。世界の檜舞台で、積極果敢に挑むチャレンジ精神を、身をもって示してくれた選手の皆様に心から敬意を表しますとともに、今後のさらなる御活躍を期待しております。

さらに、今月には47都道府県の令和4年度県民経済計算のとりまとめ結果が公表され、本県の一人当たり県民所得の順位が東北1位となりました。県民の皆様、県内事業者の皆様の積極的な経済活動の成果であり、その取組みに深く敬意を表するところであります。

人口減少の中ではありますが、決して後ろ向きにならず、各界、市町村、県民の皆様と一緒にになって積極果敢に取り組んでいくことが重要であります。県としましては、引き続き「人口減少のスピードの緩和」と「人口減少に対応できる県づくり」を最重要課題として推進しますとともに、県民のウェルビーイング向上、県内経済の持続的な成長、安全・安心な地域づくりに向けた取組みを進めることで、「人と自然がいきいきと調和し、眞の豊かさと幸せを実感できる山形県」を実現してまいります。

以上、ごく一部ではありますが、今年1年を振り返っての所感とさせていただきます。

それから、今年1年を表す、今年の漢字、私なりにいろいろ考えての漢字でありますけれども、この一字といたしました。（補足：ここで知事が「高」の文字が書かれた色紙を提示する。）ある市の市長さんと同じ字であるので、「あれっ」と思いましたけれども、同じような感想を持っていらっしゃったのかなというふうに思ったところであります。

なぜこの字を選んだかということでありますけれども、やはり4月の米国の「高」い関税、関税ショックというものがありました、県内にも激震が走りました。本当に影響が各界で懸念されたところであります。

それから、夏場の「高」温少雨、これも大変、人間にも作物にも厳しい季節となりました。熱中症患者も過去2番目に多くなりましたし、農作物に様々な影響が現れたところでです。さくらんぼは不作となりましたけれども、ただ幸いなことに、本当に生産者の皆様がいろいろ御苦労されまして、一等米比率は90%台という「高」い比率となりました。全国の一等米比率が70%台でありましたから、本県は大変良質なお米を生産したということになります。それでも新米が出回ってからも米価は「高」い、物価も「高」い。物価「高」騰、米価「高」騰というのが今でも続いていると思っています。

それから、「高」市政権の誕生も大変、印象的ありました。

そして、何と言いましてもですね、米国の有力メディアの「ナショナルジオグラフィック」が「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に日本で唯一山形県を選出するということがありました。本当に驚いたところでありますけれども、大変喜ばしく、誇らしく思ったところです。このチャンスをしっかりと生かして、県民の皆様とともに、おもてなしの気持ちでお迎えしたいと思いますし、中長期的にですね、しっかりとたくさんのお客様をお迎えできるように、さまざまな整備を行っていきたいというふうに思っております。

そしてですね、先ほども申し上げたんですが、内閣府から公表された県民経済計算の結

果によりますと、本県の一人当たり県民所得、これが東北1位ということになりました。それだけ高くなつたということで、製造業をはじめ、県内の事業者の皆様、県民の皆様が、本当にそれぞれ大変な御尽力、御努力をしていただいた成果だと思っております。

今年いろいろなことがありましたけれども、次年度に向けて、また良い年になるよう、県民の皆様、事業者の皆様と一緒にになって、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに思っているところでございます。

以上です。

☆フリー質問

記者

山形新聞、稻村です。よろしくお願ひします。

今の、今年1年を振り返っての流れで一つまたお聞きできればと思うんですが、ちょうど1年前に知事選、間もなく1年ですけど、1月に知事選が終わって、5期目の1年目が間もなく終わろうとしているところだと思います。この1年振り返った時に、その成果と課題も含めてという視点で、知事自身のこの1年の総括、どんな年だったかっていうのを教えていただければと思います。

知事

そうですね、まず、あの時私が掲げたのは、県民の皆様とのお約束ということで、やはり復旧・復興、昨年の7月25、26日の大雨災害、過去最大の風水害でありましたけれども、甚大な被害を受けたわけでありますて、未だに避難生活を余儀なくされている方々がおられますので、まず1日も早い復旧・復興を成し遂げたいということで取り組んでまいりました。本当にいろいろな、分野にはよるんですけども、半分以上進んでいるということで、中には8割以上進んでいるという分野もあります。着実に復旧・復興が進んでいくということであると思っております。これからもしっかりと、1日も早い復旧・復興を目指して取り組んでいきたいというふうに思っています。

あとは、本当に次々といろいろな課題が飛び込んでくる中で、しっかりとそこに対処するということが県政の一つの役割でありまして、米国の関税措置が世界中を震かんさせたわけですけども、日本国はもちろん本県内でも激震が走り、アンケート調査をしたら、やはり7割の方々が不安だということであったと思います。それに対処するということで、相談窓口でありますとか、取引拡大の支援といったことを行ってきました。今、一応落ち着いてきていると聞いておりますけれども、ここ10年の実質県内総生産額や名目県内総生産額、それはしっかりと増加をしております。人口が減少する中にも関わらず、経済は縮小していないというふうに思っております。事業者の皆様方の、大きな大きな御努力のおかげだというふうに思っておりますけれども、行政もですね、一緒になって、しっかりとサポートをしていくことで、やはり山形県の発展、県民の皆様の幸せにつながるよ

うにしていきたいというふうに思っています。

一人当たり県民所得上げていきたいという気持ちがありましたので、東北1位になったというのは、県民の皆様と一緒に喜びたいというふうに思っております。

それから昨日農林水産部から聞きまして、農業産出額が3,000億円というのは、私が1期目で掲げた目標であったんですけれども、ようやく3,000億を超えたかということで大変喜ばしく思ったところです。米価の上昇というところが大きな要因でありましたけれども、ただ、本当に農業界にとって明るい話題であったかなと思っております。

本当に温暖化で過酷な環境と言いますが、あと物価高でも大変な厳しい環境でもあるんですけれども、やはり一つひとつ課題をクリアしながら、一緒になって乗り越えていきながら明るい山形県の農業・工業・観光といったことに取り組んで、やはり山形県は素晴らしい県だというふうに思っていただけるようにしていきたいというふうに思っています。

あと観光は、思いがけなく日本の中で唯一山形県が選出されたということで、高い評価をいただきました。これはおいしい食であります、豊かな自然というだけではなくて、その精神文化、本当に本県の精神文化はゆるぎない強みだというふうに思っています。ここは何千年も歴史があるところでありますので、しっかりと先人が伝えてくれて、現代を生きる私たちも次の世代にしっかりと繋いでいくことで、山形県の強みということを継続して、維持して、今後も交流の拡大や関係人口の拡大に繋げていきたいというふうに思っているところであります。答えになりましたでしょうか。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

年明けにもまたお伺いするかと思うんですけども、先ほども知事の発言の中で来年も良い年にしていきたいというふうにお話があったかと思うのですが、具体的には来年はどういった形で良い年に、「こういういい年になればいいな」みたいなお考えと言いますか、願いみたいなものというのは何かございますか。

知事

そうですね、ぜひ来年に取っておいていただきたいと思いますけれども、まず、私の思いでは、これはちょっと森羅万象なので人間の力ではどうしようもないんですけど、大災害が起きないでほしいです。一つには、それが一つです。もし発生したとしてもですね、しっかりと備えをして減災に繋げていければというふうに思っています。それが一つですね。

あとはやはり、県民の皆さんとのウェルビーイング向上というところに力を入れていきたい。産業振興はもとよりですね、どうやったら県民の皆さんとのウェルビーイング向上に繋がるかなといったことを県民の皆様と一緒にになって考えながら進めていきたいというふうに思っています。

記者

YBCの穂積です。

冒頭にお知らせがありましたクマの件でお伺いしたかったんですけども、このタイミングで、クマ出没警報から注意報に切り替えられるというふうなお話でしたけれども、このタイミングで注意報に切り替える理由としては何があったのでしょうか。

知事

そうですね。やはりクマの出没件数がかなり減少してきたということがあります。直近1週間の市街地での目撃件数が3件ありました。これは県で定めている警報、または注意報の発令基準を下回っておりまます。下回っていてどちらでも、警報でも注意報でもなくなっています。

けれどもですね、年末年始を迎えますし、ご家族で外出する機会や県外から帰省される方が増えるというようなことも考えましてですね、注意報あたりで県民の皆様に注意喚起をしていきたいというふうに思ったところであります。

記者

本来であれば注意報レベルではないところを。

知事

ええ、警報でも注意報のレベルでもどっちでもないんですけども、でもやはりこれからたくさん人が集まる、一緒に出かけたりというようなこともありますので、注意報くらいに、1月15日までということにしております。

記者

共同通信の中村です。

最初にお話のあった戦争の記憶継承の検討委員会についてお伺いしたいんですけども、県がここでそういう委員会を立ち上げるというふうにした経緯をもう少し詳しくお伺いしたいんですが、このタイミングでその展示のあり方とか継承のあり方を検討するというのは、戦後80年で色々県民から資料を集めてほしいとか、そういう声があつて決められたということでしょうか。

知事

そうですね。先ほど申し上げたとおりです。今年が戦後80年という節目の年であります。来年になるともう81年になってしまいます。この80年の間に色々な、小学生とのワークショップでありましたり、中学生の平和の作文朗読でありましたり、高校生の沖縄「山形の塔」慰霊祭への参列とか色々あったのでありますけれども、まずこの80年という節目の年に今

後何をしていくかということをしっかりと県民の皆様にアナウンスしていく必要があるな
と思いました。

ここまで来るには、今記者さんがおっしゃったようにですね、多くの県民の皆様からさま
ざまなお声をお聞かせいただいたということが要因となっております。

記者

わかりました。2月に第1回の会合をして、今後ですけど、検討委員会はどうなるんでしょうか。

知事

そうですね、今から人選を進めているところなんありますけれども、どういった戦争の資料の展示のあり方、というご意見をどうやって頂戴していくのかというようなことがありますので、スケジュール、目途としているところまでは担当から聞いていないんですけども、やはりしっかりと議論をしながら、その議論をすること自体が戦争の惨禍を防がなければならぬということになると思いますし、いろいろたくさんの方からお話を聞きしながらということになるかと思いますので、いつ頃を目途にというところまではまだ担当から聞いておりませんので。

記者

読売新聞の竹田です。

発表外の事項になるんですけれども、JRの羽越線の脱線事故から明日で20年になるんですけれども、県内で起きた大きな被害の出た鉄道事故ということで、それから20年ということで知事のほうで何か改めて御所感などありましたら教えていただけますでしょうか。

知事

はい。20年ということで、本当に「光陰矢の如し」と言いますけども、歳月がもう20年も経ったのかなというふうに思っております。クリスマスの日だったので、私もよく覚えております。若い方がお亡くなりになったということで、本当に痛ましい事故であったというふうに思っています。

あの後はですね、JR東日本でもさまざまな工夫を凝らして、先端技術を駆使してですね、さまざまな対策をしているというふうにも聞いておりますので、その後は特段の事故は起きていないのかなと思いますけれども、やはり自然の猛威という中でですね、いかに減災というふうなことに取り組んでいくかということの大切さを本当に痛感させられた事故だったなというふうに思っております。しっかりとJRさんで対処してくれているということが一つ。

ただ、県民の皆様はですね、ちょっと風が強いとすぐ止まってしまうというふうなことで、

ちょっと不便だというような声もお聞きする時があるんですけれども、ただ、やはり安全・安心が第一ですよねということを私からも申し上げております、さまざまな気象変動はありますけれども、やはり次々と新しい技術を取り入れながら安全・安心に運行できるようにしていっていただきたいというふうに思っております。

記者

さくらんぼテレビの柿崎です。よろしくお願ひします。

産出額が今年で3,000億を超えたということで、主な要因として米価の上昇とおっしゃっていましたけれども、一方で、米価の上昇に伴って価格が上がり、今年の新米は売れ行きがちょっと鈍っているというような状況もあります。米の供給県として知事はどのように捉えていらっしゃるか御所感をいただければと思います。

知事

そうですね、生産者の方からですね、米の価格下落ということで、暴落になるんじゃないかなという心配の声が多く聞かれています。私も大変心配をしているところです。農水省からは十分に供給はできているというふうなこともありますので、需要に合わせた供給ということなんです。これは基本なんですけれども、十分に供給はできているはずなんですけれども、価格が下がらないというのは、どこがどうなっているのかというふうに、私としても読めないところでありますし、今後どうなっていくのかということがまさに大変懸念されるところだと思っています。

地域によってはですね、新米が売れているというところもあるようありますけれども、あまりお米の質にこだわらないような地域ではやはり安い方向に、例えば安い輸入米のほうに業務米などは移行しつつあるというような話も漏れ聞いたりして、大変心配しております。日本人の主食ですから、やはり持続可能な生産ができて、また消費者も購入できてというそういう良い循環を作っていく必要があると思います。それについて市場の動向をしっかりとキャッチしながら、政府としてしっかりと対処をしていく必要があるというふうに思います。

備蓄米をどうやってまた購入していくかとか、どのタイミングで購入していくのかとか、私も注視しているところです。やはり市場をしっかりと捉えながら今後の日本産米、お米の安定した需要と供給にしっかりと戻していっていただく、これが政府の役割ではないかというふうに思い、政府にもそのように要望しております。

まだまだ油断できない状況だというふうに思っていますので、本当に大きな関心を持って注目をしていきたいというふうに思っています。